

「認知的インタラクシオンデザイン学」公開講義

京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 情報工学専攻では、2015年度より、インタラクシオンデザイン学コースを設置し、そこでの授業として「認知的インタラクシオンデザイン学」を開講しています。本講義は、公開講義として実施しますので、学内外から、どなたでもご参加いただくことができます。参加費無料、事前登録は不要です。

問い合わせ先: 京都工芸繊維大学 情報工学・人間科学系 岡 夏樹 (nat AT kit.ac.jp)

演題: 社会的シグナル(social signal)から対話相手の意図を読む

講師: 植田 一博(東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 教授)

日時: 2016年7月1日(金) 12:50-14:20

会場: 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 東部構内 東3号館(ノートルダム館)3階 K-303教室

概要: 社会性認知とは、個人間のインタラクシオンないしコミュニケーション(会話)を成立させる上で必要となる種々の認知能力を指す。その機能は、他者認知、顔・表情認知、視線認知、自己認識、模倣、共感、他者意図理解、社会的情動、共同注意、協調作業、観察学習、心の理論、コミュニケーションなどを広く含む。これらのうちのいくつかは、社会心理学でも研究されてきたが、近年の認知科学や認知脳科学の発達により、社会性認知を高次レベルの認知機能としてだけでなく、低次(感覚・運動に近い)レベルの認知機能として捉えなおす機運が高まってきている。特に、相手が発する非言語情報(表情、視線、しぐさやジェスチャー、姿勢、音声に含まれる韻律など)、つまり社会的シグナルの読み取りから、ボトムアップに社会性認知が実現されていると考えられるようになってきた。

本講義では、そのような社会性認知の中でも特に他者意図理解に焦点を絞り、まず、他者意図理解やその前提となっている視点取得に関する認知心理学および認知脳科学の研究を紹介し、こうした社会性認知の機能の進化的な基盤について議論する。次に、コミュニケーションにおいて他者意図理解を行えるコンピュータエージェントやロボットの構築に向けて我々が行ってきた実験的研究について紹介する。具体的には、自然なコミュニケーションにおいて相手の発話が嘘かそうでないかを、また対面販売において店員が顧客の言語化しにくい欲求を、それぞれ見極めることが、対話相手が発する社会的シグナルを読み取ることで可能なことを、人を対象にした行動実験結果の統計解析に基づいて議論する。最後に、将来的にこのような人の認知機構をエージェントやロボットに実装することの意義や、その際の課題点を整理する。

